

宗祇さん

平成29年1月31日発行 裾野市宗祇法師の会

設立より一年のあゆみ

昨年二月、皆様から温かいご支援をいただき発足しました裾野市宗祇法師の会も一年を迎えました。

芭蕉、西行と並んで日本三大歌人と称される宗祇の墓所を縁あって頂く裾野市民として、多くの人が宗祇の遺徳を学び、顕彰し、その文化に親しむことでオンリーワンの「宗祇の眠るまち、裾野」を誇りとし、次世代へ繋げて行く、そんな裾野をめざし活動しています。

ここにこれまでの活動を皆さまにご報告いたします。ご意見、ご提案など頂けましたら幸いです。今後ともどうぞよろしくご支援、ご協力をお願い申し上げます。

会報を発行するにあたり、地元の人達から永く宗祇さんとして慕われていることを知り、誌名を「宗祇さん」としました。創刊号は会長、中村雄爾住職による筆です。

◎会員数 法人会員 十四名

賛助会員 十四名

普通会員 五十八名

計 八十六名

(平成二十九年一月現在)

「裾野市宗祇法師の会」会報誌の創刊を祝して

裾野市長

高村謙二



「裾野市宗祇法師の会」会報誌の創刊、心からお祝い申し上げます。会員の皆さまには、日頃より当市の歴史・文化の普及、継承にご尽力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

申すまでもなく宗祇法師は、室町時代の連歌師として我が国の文化史上に大変知られており、桃園定輪寺の宗祇法師の墓所は、当市の大切な文化遺産であります。また、世界文化遺産として登録された富士山にも所縁ある宗祇法師を偲ぶことは、市民の皆さんが地域の歴史・文化の価値を再認識し、さらに郷土愛を深めていただくことにもなります。

昨年十一月、貴会主催の「史跡めぐり」に参加させていただき、丁寧な解説を聞きながら定輪寺、植松家住宅、五竜の滝など、当市の史跡、文化に触れ、皆さんと楽しく歩くことができました。富士山の裾野の豊富な水、美味しい空気と、「世界遺産 富士山」、「桃園定輪寺の宗祇法師の墓所」を始めとする地域文化を有する当市は「東京から百キロ圏内」特別な

田舎」であることを実感するとともに、貴会の活動から特別な田舎「歴史・文化・名所旧跡」を核として地域づくりにつなげようという「市民協働のまちづくり」に向けた機運の高まりを実感いたしました。

さて、連句は、座の文芸として独立性と調和を特徴としていると伺っております。連句の可能性を追求された大岡信氏は「優れた五七五には、いやおうなしに他者を唱和に誘う要素があるのだ」と記されており、自分の個性を生かし、他者の個性を尊重する連句の姿勢は、他者との繋がりが希薄になりがちな現代社会、地域コミュニティにおいて必要不可欠ではないかと思えます。

会員の皆さまには、今後とも宗祇法師の偉業を称え、これからの裾野市を築き担う子供たちに、連句の心を継承され、「東京から百キロ圏内の「特別な田舎」」で豊かな心を育んでいくためにも、なお一層のお力添えをお願い申し上げます。結びに「裾野市宗祇法師の会」の益々のご発展と会員皆さまのご健勝、ご活躍をご祈念申し上げます。会報誌創刊のご挨拶といたします。

設立総会

二月二十一日

東西公民館において高村謙二市長、鳥澤由克県議会議員、二見榮一市議会議長をはじめとする来賓、会員約四十名の出席のもと設立総会が開催されました。

発起人の挨拶に続き、来賓の祝辞、設立要旨の説明があり、その後会則について、執行部役員の選出、事業計画案、予算案の審議が行われ、承認されました。

初代会長に中村雄爾任職が選任され、会の今後の活動に地元や会員の協力を願う旨挨拶がありました。



講演会

学芸員 井上輝夫氏

総会に引き続き、当会最初の事業として当会の事務局で学芸員でもある井上輝夫氏による「桃園山定輪寺と連歌師宗祇」と題する講演会が行われました。

定輪寺の歴史的役割、当時の桃園地区や裾野の様子から

宗祇という人物、その頃の歴史的背景や定輪寺と宗祇との出会い、彼の死後定輪寺に遺体が埋葬されるまでの経緯などについての講話がありました。



新役員

- | | |
|-----|-------|
| 会長 | 中村 雄爾 |
| 副会長 | 桃井 昭一 |
| 監事 | 歌崎 正美 |
| 事務局 | 川畑 政二 |
| | 勝又美代子 |
| | 井上 輝夫 |
| | 土屋美和子 |
| | 飯塚めぐみ |

宗祇法師を偲ぶ会

六月二十五日

第一部 宗祇に捧ぐ裾野の文化

宗祇法師が眠る定輪寺でこれまで裾野連句会が催してきた偲ぶ会を宗祇法師の会が引き継ぐ形で行われました。

高村謙二市長を始め来賓の皆様と会員ら約八十名が参加、中村会長より「これまで宗祇法師遺跡保存会、裾野連句会が偲ぶ会を開催してきたが今後はこの会が中心となって宗祇を継承し、裾野市の文化の発展を図って行くつもりです。」との挨拶がありました。



続いて来賓から励ましと期待の言葉を頂き、この後は、裏千家の竹井宗英氏による献茶、定輪寺梅花講の御詠歌、市吟道連盟の黒木敏也会長らによる吟詠、花月流師範花月乙千寿社中による日舞、岩波お雛子保存会のメンバーによるお雛子、裾野連句会顧問小林静司宗匠による歌仙朗詠など裾野市の多彩な文化が奉納されました。

第二部 連句実作会

午後からは場所を東西公民館に移し、東京と伊東市より三人の捌きの先生を迎え、三十人程の参加者がベテラン組と初心者組に分かれて連句作りに挑戦。

半数の参加者が初めての経験に戸惑いながらも、捌きのリードに溶け込んで和気あいあいと言葉遊びを楽しみました。



半歌仙「陰青し」の巻
陰青し天蓋かざす糸桜
裾さばき良き紹袴の稚児

捌 近藤焦肝

蕉肝

水を得し代田の嶺を下に見て

川畑政輪

おぼる月夜にこだまする笛

歌崎正美

柴の戸に出づれば鹿の落し角

桃井昭一

鍋のよもぎのゆで上がる頃

飯塚 縁

点と線市長の描く町図面

金窪明美

隣組から文化発信

勝又丘女

婚活の二人に強く言い寄られ

蕉肝

愛にかけるか金にかけるか

正美

同窓会向かうホテルの帰り花

政輪

国民投票ああ返り討ち

昭一

ビッグベン時代に遅れ始めけり

光代

ポルシェは今も若者の夢

縁

何ごともしたばたしない桃太郎

明美

風やわらかに吉備の山里

丘女

お遍路の果てなき旅を月に寝て

蕉肝

磯菜摘みたる浦のさざ波

正美

半歌仙「連句会」の巻
夏半ば初体験の連句会
指を折りつつ浴びる涼風

捌 宮澤次男

馥郁とコッペパン焼かおりして

佐野彰一

ラケット抱え乙女らの行く

今関萌瑠

路地裏に猫の鳴き声望の月

節子

茸着に酒を酌み交う

佐藤孝子

捨案山子そつと上衣を着せてやり

水口たか代

胸の名前をすぐに覚える

今関純子

君となら地獄の底まで付き合うよ

日菜

EJ脱退選ぶ英吉利

日菜

神頼みカバン看板無い身では

彰一

消えてなくなる雪のけっししよう

萌瑠

凍て月に明日を祈る震災地

日菜

「結」と言う字を辞書で調べる

孝子

御先祖も宗祇も眠る定輪寺

たか代

孫のピアノのとぎれとぎれに

純子

花求めロープウエーに人の列

宮澤次男

裾野広々巣立つ鳥どち

孝子

初めての連句

佐野彰一

六月二十五日に「宗祇法師を偲ぶ会」が定輪寺で催された。不都合のため私は東西公民館で行われた午後の連句実作会にだけ出席させていた。

今迄、短歌とか俳句などの創作をやったことの無い私が

誘われ、連句も文字通りの初体験である。連句は訳が分からない、との先入観もあり、

出来るものなのかどうか、不安が大きかったが、初心者グループをご指導下さった宮澤次男先生の捌きの上手さで何とか入って行けた。

「先ずは、季節を考え、夏の句を」との先生のお言葉に従い、メンバー各々が天井

を見上げたり、窓の向こうに

こうして、次の句、又次の

目をやりながら、指を折り曲げ、ぶつぶつ呟き、作った句を捌きの先生に提出。出された句を先生は声を出して読み上げては、「中々良いですね」とか、「成程、これも良いですね。ここをこんな風にする

が、まさにそうであった。「百聞は一見に如かず」と言うが、「百見は一作に如かず」、の感を強くした、楽しい連句初体験であった。先生

と、更に良くなりますね」などと、私達初心者の句を褒めては巧く捌いて下さった。

そして事務局の皆様、有難うございました。

兼載忌に参加

六月五日

室町時代の三大歌人で師弟関係にある心敬、宗祇、兼載はそれぞれゆかりのある地、伊勢原市、裾野市、会津若松市で顕彰会がありますがこのたびの裾野市宗祇法師の会の発足により三市の交流がはじまることとなりました。

そこでこの度六月に催された兼載忌に宗祇の会の役員三名が参加しました。

「さみだれに

松遠ごかる

すさきかな」

◀兼載の歌碑



小・中学生のための連句会

八月十二日

座の文学連歌を元に編み出された連句を身近に感じ、親しんでもらうため、夏休みの小中学生を対象に連句会を企画しました。

市内の小中学校を通じて発信し参加を呼びかけました。当日は東西公民館の会議室に中学生五名と小学生一名に保護者と本会の会員数名が加わ

全国から集まった三十名ほどが猪苗代湖畔の会津小平潟天満宮に集結、グループに分かれ連句実作に挑みました。初めての出会いながら連句

という共通の想いを抱く者同士、互いに高め合いながら新たな情報の交換など、親交を深めることができました。

翌日は恵隆寺の「立木千手観音」や勝常寺の「国宝薬師三尊」など普段は見ることの出来ない市内の神社仏閣などを案内していただき実り多い二日間となりました。



り、中学生グループと小学生に大人のグループに分かれて、半歌仙(十八句)を実作しました。発句は季語を「夏」とし、初めての連句体験のメンバーも、前句の趣を受け、想いを感じつつ付け句を詠み進めていきました。出された一句一句が、大人にはない自由な発想の句で、新鮮で素晴らしい半歌仙が巻けたと思います。芭蕉が「連句は子どもがするに相応しい」と述べた所以を感じた子ども連句会でした。

半歌仙「ひやけして」の巻
なつやすみいっばいおよいでひやけして
白く残ったゴーグルの跡
連句会子らの笑顔に励まされ
祭り囃子に元気はつらつ
満月の光さし込むガラス窓
かれはあつめてやきいもたいかい
赤とんぼバツと飛び立ち大はしやぎ
夢を抱いて成田空港
なつかしいひっこした子にいたいな
淡い初恋もどれぬあの日
ゆきだるま石がないからめだまなし
大根を抜く急げ畑へ
ばあちゃんハヤシライスはいさいこうだ
月に供える庭の芍薬
川沿いにサイクリングは愛犬と
富士山の道一直線に
はなざかりともだち千人つくりたい
はばたく空へ巣立ち見守る

半歌仙「空はお寝坊」の巻

夏の朝空はお寝坊まだ暗い
眠い目こすり宿題おわれ
カラオケで気分転換Eガール
ポケモンゲットに心躍らせ
月明り我等を照らすパリピだぜ
七夕願う将来の夢
稲実る家族で食べよう祖父の味
誰も知らない密かな想い
人混みに居るはずのない君探し
ミッキーマウスとパンヤリ一枚
夢の国長蛇の列の先は何
SNSで噂のタルト
塾帰りいつもと違う冬の月
モコモコセーター下ろしたばかり
初めての五輪観戦リオの地で
志士にあこがれ史跡を巡る
晴れ舞台少し緊張花の門
進級祝いはゲームのソフト

- 藤江優慶
- 藤江真里
- 勝又美代子
- 井上輝夫
- 賀茂博美
- 優慶
- 真里
- 美代子
- 優慶
- 博美
- 優慶
- 輝夫
- 優慶
- 真里
- 美代子
- 輝夫
- 優慶
- 博美
- 大庭瑠子
- 藤江千愛
- 横山舞夏
- 瑠子
- 今関萌瑠
- 賀茂大紀
- 千愛
- 無夏
- 萌瑠
- 萌瑠
- 瑠子
- 瑠子
- 千愛
- 萌瑠
- 瑠子
- 舞夏
- 瑠子
- 千愛
- 大紀

史跡巡り

十一月二十七日

富沢村穴塚

時折雨が落ちるあいにくの天気でしたが郷土の歴史に興味がある皆さんの熱意で予定通り実施しました。高村市長はじめ会員、非会員の方々合計三十名ほどで井上輝夫氏の案内のもと二時間半のコースを満喫しました。

一六七一年、黄瀬川の水を水田用水として引き入れたもの。

これまで無意識に通り過ぎていましたがこんなところに歴史的施設があったのを再確認。

桃園定輪寺

宗祇の墓所は苔むした五輪塔、「なべて世の 風をおさめよ 神の春」の句碑などがあります。

また普段は見ることでできない宗祇木像、土佐光起筆の掛け軸などを堪能しました。



(順路) 植松家住宅

江戸時代中期に建築されたものでメンテナンスの燻蒸を終えたばかりの昔懐かしい香りに満ちていました。

大畑城址

葛山城の出城と言われているもので、一行は小高い丘陵をながめながら黄瀬川沿いへ



室町時代の代表的な連歌師がわがまち裾野に眠っているという事実に変更して深い感慨を覚えます。

宗祇旧墓所

元来ここに葬られていましたが高速道路などの開発のため現在の定輪寺境内に移しました。

花園橋宗祇句碑

かつて旧国道二四六号線、桃園入り口左手角に建てられていたもので

「世にふるは さらに時雨のやどりかな」の句が刻まれています。

その後二本松浅間神社を経た無事ゴールしました。

連句は楽しく

静岡県連句協会会長

宮澤次男

平成二十九年の輝かしき新年を迎えて裾野市宗祇法師の会会報誌創刊とのこと、重ね重ねおめでとうございませう。

江戸時代に隆盛をみた連句も、明治に入り個人主義が尊重されるようになり、連句は文学ではないと言われて久しいが、平成になりまして、又、連句人口が増していると思われうれしいことです。

余談ですが、今から五十年前は、隣の家には味噌、醤油等を気軽に貸し借りしてきたし、祝言があるからと呼べたものですが、現代はその様なことは一切なく、我が家は我が家の風潮が主流でして、一層人間関係が、希薄となっておりますが、こんな時代ですので尚更、膝を交え庶民の言葉のやりとりが大事ではないでしょうか？

肩肘は張らず言葉と言葉を紡ぎまた新しい言葉で繋ぐ日本人の心の中には五、七、五、七、七と言う言葉の繰り返しは、生まれながらにして身につけている日本語の美しい響きを持っています。

連句は座の文芸です面白くないと続きません。袴、羽織、袴だけでは何も進展しません。ぜひ普段着の言葉で楽しみませう。連句は和です

西地区コミュニティ祭りで 西中3年生が市へ提言



十一月六日

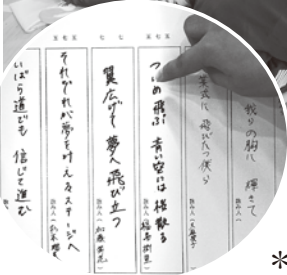
先に行われたコミュニティ祭りの中で「裾野市への提言」コーナーにて、今関萌瑠さんが「連句を裾野に広めよう」と提言。市内には文化的なことが少ないので、宗祇と連句を通し市民が「思いの共有」が出来き、またみんなで連句を詠むことで「チームワーク」が生まれだろうと発表しました。

そして、列席されていた高村市長にその提言書を手渡し、市長は「宗祇さんを定輪寺の活動だけにせず、市でもこの文化的なものを広めて行きたいと思う。」と回答されていました。

新春連句体験 一月五日 裾野西中学校

裾野西中学校において生徒会主催の百人一首大会に先立って、全校生徒を対象に連句体験が行われました。

夏休み子ども連句会に参加した西中生徒会長が、宗祇法師を裾野市の文化として市民に伝えたい、と総合学習で宗祇と市の関係などをまとめ発表したこと、今回の連句会に繋がった経緯もあります。また、校長先生や授業でとりあげてくださった国語担当の先生のご指導に依るところが大きいです。当会の会員が加わり、内容の企画をしました。



実作は式目など細かなルールは省いて、連句の基本五七五に七七を連ねることのみを課題に取り組みました。日頃親しんでいる校歌の歌詞から発句を選び、それに五人のグループが連句を創っていききました。

初めは、難しいと感じていた生徒たちですが、二句目が付くと指を折りつつ句が次々と連なっていくきました。特に三年生は豊かな言葉の表現による作品がみられました。連句を西中の生徒会行事の伝統として続けることを望む声もあり、来年度はさらに発展させ半歌仙に挑戦できたらと願います。

生徒たちの感想

*自分の書いた句に友達がつなげて書いた一句が面白くて、それがずっと続いていくことが楽しかったです。また、機会があつたらやりたいです。

*連句は他の人との価値観の違いを認め、互いにそれを支え合いながらつくるのが大切だと感じた。これも西中の伝統にできるのではと思った。

宗祇桜とは

皆さんは宗祇桜をごぞんじですか？

定輪寺に眠っている宗祇の墓所に寄り添うように植えられている桜のことです。

これはかつて宗祇没後五百年祭の折に、主催者裾野市宗祇法師遺跡保存会に郡上大和市から送られたものです。

室町後期、宗祇が郡上大和を訪れた際、領主東常縁と桜の木の下にこんこんと湧き出る清泉に憩い、和歌を詠んだとのこと。

このことが有名な宗祇水の由来であり宗祇桜の名前の由来となりました。伝説によると宗祇が歌を詠むと美しい花が咲いたのだそうです。

裾野市と郡上市が宗祇のご縁で繋がったのです。

宗祇桜は見慣れている桜と違い、ウワズミザクラと言いつつ五月ころ、長さ十七センチ程の白いブラシ

お知らせ

総会のご案内

- ◎日時／4月16日(日) 午後1:30より
 - ◎場所／東西公民館3階 会議室1、2
- 総会后、講演会を予定しています。

会員募集中

裾野市宗祇法師の会ではともに活動して下さる方、または会員として後方から支えて下さる方を募集しています。

※お知り合いなどご紹介ください。

詳しくは [裾野市宗祇法師の会](#) [検索](#)

または、お電話で090-4851-1804(勝又まで)



ウワズミザクラ

のような可憐な花を咲かせます。古名をハハカといつて占いにも使われた霊木のようにです。十一月に訪れた時は美しい紅葉がみごとでした。皆さんも今度定輪寺を訪れたときに探してみてください。きっと宗祇さんも喜ぶことと申します。